



四日市社会保険病院でのIBD治療



四日市社会保険病院 外科
大腸肛門病・IBDセンター 副部長
山本隆行 (やまもと たかゆき) 先生

1989年三重大学医学部卒業、同大第2外科入局。1997年より英国パーミンガム大学クィーンエリザベス病院外科にてIBD治療の臨床研究。2001年より四日市社会保険病院勤務。その後、米国オハイオ州グループランドクリニックでの臨床研究などを経て、四日市社会保険病院に復職。現在に至る。

外科医でありながら栄養療法を重視し、患者さんとの対話を最も大切にしている山本先生にお話をうかがいました。

IBDチームの結束で患者さんをアシスト

全国初の社会保険病院

当院は江戸時代から続く由緒ある施設を母胎に昭和22年5月、社会保険病院の第1号となる「社会保険羽津病院」としてスタートしました。現在では多くの診療科を抱える総合病院であり、中でも特に大腸肛門病に力を入れています。平成11年に設立された大腸肛門病IBDセンターでは、常に内視鏡検査が行えるスタッフが揃っており、患者さんは入院・外来にかかわらず、いつでも必要な時に検査を受けられます。

栄養療法を重視、ステロイドに依存しない治療を目指す

当センターでは現在、潰瘍性大腸炎(UC)370名、クローン病(CD)220名の患者さんの診療にあたっています。CDでは、レミケードを含む、さまざまな治療を行っていますが、基本的な治療として重視しているのが栄養療法です。原則として栄養療法は、夜間の鼻注を指導しています。これは昼間に十分に食事をとれることや、味が気にならないというメリットがあるためです。当センターのスタッフは実際に鼻注を体験していますので、患者さんにより適切に指導することが可能です。

UCでは、軽症・中等症の患者さんにはなるべく強い薬を使わず、ペンタサや5-ASA製剤でコントロールしていきます。効果がなければGCAP療法、ステロイドや免疫調整剤などを使います。しかし、ステロイドで緩解を維持することは

避けなければなりません。当センターではステロイドのメリット・デメリットを患者さんに説明し、なるべく使わないようにしています。また、ステロイド依存症の方は、免疫調整剤やGCAP療法を用いて、早期に減量できるようにしています。

経験に基づいたGCAP療法の適用

厚生労働省のUC治療指針ではGCAPの適用は、ステロイド抵抗性となっておりますが、当院のデータではステロイドを大量に投与された患者さんよりも、なるべく投与量の少ない、発症から間もない段階での使用が効果的であると考えています。それらをふまえ、当センターでは比較的早い段階でGCAP療法を施行しています。前医でステロイドを投与されたが抵抗性であり、内視鏡検査で潰瘍がひどい症例でも、GCAP開始後、1クールで潰瘍が消えたり、粘膜治癒した例がいくつもあり

UCでは、軽症・中等症の患者さんにはなるべく強い薬を使わず、ペンタサや5-ASA製剤でコントロールしていきます。効果がなければGCAP療法、ステロイドや免疫調整剤などを使います。しかし、ステロイドで緩解を維持することは

四日市社会保険病院でのIBD治療



左から山本先生・松本好市病院長・梅枝寛IBDセンター長。病院を挙げてIBD治療に取り組んでいる



日々勉強を欠かさない、山本先生とIBDチームのスタッフ 「みなさんのお話を聞かせて下さい」



リラックスしてTVを見ながらGCAP療法を受けられる



大腸肛門病・IBDセンターの待合。多くの患者さんが信頼できる先生に診てもらおうと訪れる

患者さんひとりひとりに合わせたオーダーメイド治療を

当センターの特徴は、独自に作成したパンフレットを使い、入院中の患者さんとたくさんお話をすることです。対話をするので、患者

ます。また、かなり重症の劇症型UCでも、GCAPを5〜10回施行することで臨床症状が改善し、手術を回避できた例もありました。一般的にGCAP療法が効きにくいといわれている症例であっても、有効な例はたくさんあるように思います。

患者さん自身の知識を高め、病気に対する不安を取り除いてもらうことが目的です。

炎症性腸疾患（IBD）はいろいろな治療法があります。若い患者さんも多く、将来に多大な影響を及ぼします。患者さんにとって最良のアシストができるように、看護師・薬剤師・栄養士・臨床工学士などからなるIBDチームのスタッフは、常に最新の知識を求め、勉強を怠りません。今、IBD治療は大きく変わってきています。その中で、新しい治療法と従来の治療法を組み

病 院 概 要



四日市社会保険病院

- 診療受付時間：月曜～金曜 8:00～11:30
- 休診日：土曜、日曜、祝日、年末年始（12月29日～1月3日）
- 所在地：〒510-0016 三重県四日市市羽津山町10番8号
- TEL：059-331-2000
- HP：http://www.zensharen.or.jp/ykib/public_html/home.htm

合わせることで、患者さんのQOLをどれだけ上げていけるかが重要です。そのためにも当センターでは、術後の痛みが少なく、傷跡が小さい腹腔鏡下手術

も積極的に取り入れ、個々の患者さんに合ったオーダーメイド的な治療を行うことで最大限、患者さんのメリットを引き出し、いくことを目標としています。